令和４年度　東京都北区立堀船中学校

堀船中だより

令和５年２月　第 11 号

校長　阿久津　光生
〒114-0004
東京都北区堀船 2-23-20
Tel 03-3911-8817

北区教育ビジョン 2020 の人間村長の精神を基調とし、
心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標　**自ら学び　自ら考え　自ら行動できる生徒**

《祝　東京都教育委員会表彰（健康づくり功労）式典で学校保健・学校安全分野「優秀賞」を受賞》

１月 13 日（金）、新宿区の都庁第一庁舎において、令和４年度東京都教育委員会表彰（健康づくり功労）式典が開催されました。堀船中は、学校保健・学校安全分野で優秀賞を受賞し、学校関係機関を代表して登壇すると、東京都教育長より表彰を受けました。優秀賞は３校あり、２校は都内の小学校でした。改めて、受賞の重みを感じるとともに、今後ますます学校保健・安全教育を推進していくにあたって大きな励みとなりました。

堀船中では、主任養護教諭の清水先生が中心となり、北区学校保健研究協力校として３年前から研究を重ね、「心身ともに健康で自ら学び考え行動できる生徒の育成」を目指してまいりました。昨年度はコロナ禍のため北区学校保健大会は中止となりましたが、その功績が認められて、北区保健優良校として表彰されました。そして今年度は、昨年度までの実践に加えて、コオディネーショントレーニング拠点校としての活躍、東京都避難所運営講座実施校としての取り組み等を東京都教育委員会から認められ、優秀賞の受賞に至りました。

今後も、この名誉ある賞の名に恥じぬよう、学校保健・安全教育を推進してまいります。

《祝 ２年生 浦辺さん 席書会で北区立中学校長会長賞を受賞 おめでとうございます》

１月24日（火）、北区立神谷中学校体育館にて北区中学校書き初め席書会が行われました。本校からは、２年生の浦辺さんが代表生徒として書き初めを行い、審査の結果、北区立中学校長会長賞に輝きました。本当におめでとうございます。浦辺さんの作品は、２階事務室前の廊下に掲示されております。

《北区中学校書き初め席書会　金賞受賞おめでとうございます》

金賞　３年生　佐藤（麗）さん、浅尾さん、石井さん、小池さん
　　２年生　浦辺さん、山田（悠）さん、上村（絢）さん
　　１年生　石川さん、小林（紗）さん、中村さん

みなさん、素晴らしい字で感動します。
これら書写に関する表彰は、２月６日（月）の朝礼にて行う予定です。

《２年生　平野さん　サッカー関東トレセン GK キャンプに選抜されました》

２年生平野さんが、関東サッカー協会主催の 2023 年　関東トレセン GK キャンプ推薦選手に選抜されました。関東各都県につきそれぞれ４名（U13、U14 選手各２名）、計 32 名の代表の中に選ばれました。本当にすごいことです。改めて、おめでとうございます。

平野さんは、１月 28 日（土）、29 日（日）の１泊２日で、茨城県鹿嶋市にある鹿島ハイツスポーツプラザにて、一流スタッフからご指導を受けました。「関東から世界へ」～世界基準の GK を目指して～というスローガンの実現に向かって、これからも頑張ってください。

《北区中体会バドミントン冬季シングルス大会　優秀な成績を収めました》

１月 22 日（日）、北区中体会バドミントン冬季シングルス大会が滝野川体育館で開催されました。

１年生女子シングルス　石川さん　優勝
２年生女子シングルス　浦辺さん　準優勝
２年生男子シングルス　中野さん　準優勝
１年生男子シングルス　木内さん　第３位　という結果でした。

男女とも、日頃の練習の成果を十分発揮することができて、優秀な成績を収めることができました。本当におめでとうございます。

《土曜授業日に校内作品展を行いました》

１月 14 日（土）の土曜授業日に、校内作品展を行いました。校内には生徒のみなさんの様々な作品が展示されました。多くの在校生の保護者の皆さま、そして制服採寸に来られた入学予定の６年生と保護者の皆さまにお越しいただきました。本当にありがとうございました。

北里柴三郎に学んだ優れた研究者（3）～サルバルサンを創製した秦佐八郎～

秦　佐八郎　博士
【提供】学校法人北里研究所
北里柴三郎記念室

志賀潔より 2 年遅れて、秦佐八郎が伝染病研究所に入所しました。秦佐八郎は、1873（明治 6)年、島根県美濃郡都茂村（現益田市）の農家・山根道恭の 14 人兄弟の八男として生まれました。勉学優秀で、14 歳の時には村医者の秦家から「医者になるための学費を出すので婿養子にしたい」という話しがきたため、婿養子となりました。その後、私立岡山薬学校（現関西高等学校）、岡山第三高等学校医学部（岡山大学医学部の前身）を卒業後、秦は岡山県立病院の助手になります。上京して医学者になることを志し、第三校等学校の荒木寅三郎生理学・衛生学教授（のちの京都帝国大学総長）の推薦で、1898（明治 31）年 8 月に愛宕町の伝染病研究所に入所しました。

入所早々、秦は北里から厳しく実験方法の指導を受けます。それは、研究対象がもっぱら病原性微生物であるために、研究者には感染の可能性が常にあり、場合によっては死亡する危険性まであったからです。正確に実験することの重要性を学んだ秦は、日本に最初にペストが上陸した 1899（明治 32）年 11 月、北里とともに流行地の神戸に入ると、危険をおかして現地に長期滞在し、北里とともにペスト患者の治療ならびに防疫対策の指導にあたりました。秦は、入所以来 8 年間、一貫してペストの研究に携わりました。

この期間に培った確かな技術と経験が高く評価されると、やがて秦はドイツ留学生に抜擢されます。そして 1907(明治 40)年、秦はベルリンのコッホ研究所で、梅毒の診断法である「ワッセルマン反応」の開発者として名高いアウグスト・ワッセルマン教授の下で、免疫の研究に取り組みました。その後、ドイツのエールリッヒ博士の研究所に招かれることになった秦は、ここで梅毒の治療薬の研究に取りかかることになるのです。エールリッヒ博士は、細菌学の権威であるコッホの弟子であり、ドイツで最高の細菌研究を行っていた人物でした。秦はこのエールリッヒ博士の命を受けて、さっそく研究を始めます。

梅毒は、スピロヘータという細菌の一種によって引き起こされる性病で、当時はまだ治療法が確立しておらず、世界中で多くの人々が苦しんでいました。エールリッヒ博士は、ヒ素化合物が梅毒の病原菌を退治することを突き止めていました。しかし、この物質は有毒で、実用化が非常に難しかったのです。薬としてのヒ素の効果を維持しつつ、いかに人体に影響を与えない程度まで毒性を弱めるか。秦はその実験を任されました。エールリッヒと秦は、最適なヒ素化合物の組み合わせを見つけるために、気の遠くなるような数の実験を行いました。つくったヒ素化合物をまずネズミなどで実験して、効果を確認して、猿に投与し安全性をチェックしました。その後にようやく人体への投与実験が行われます。606 回もの試作品をつくって、ようやく、梅毒の治療薬「サルバルサン 606」が誕生しました。これは、世界初の化学療法剤「サルバルサン」という商品名で、ドイツの製薬会社ヘキスト社から発売されました。サルバルサンとは、ドイツ語で「世を救うヒ素」という意味です。

1908（明治 41)年、エールリッヒ博士は、ノーベル生理・医学賞を受賞しました。秦も 1913(大正 2)年にノーベル賞候補にあがりましたが、惜しくも受賞を逃しました。その後、秦は日本に帰国します。サルバルサンの日本での使用・普及に携わり、北里研究所の副署長を務めるなど、精力的に活動を続けました。秦は北島や志賀たちと同様、恩師北里と生涯行動をともにし、日本の医学発展に大いに貢献したのです。